

2024（令和6）年度 道徳学習指導研究委員会 研究のまとめ

一 テーマ

子どもたちが「道徳的価値を深め合う」指導の工夫

～意見交流を通して、自他の考え・思いを見つめられる授業とは～

二 テーマ設定の理由

道徳教育において、子どもたちがさまざまな道徳的な価値に触れることが重要だと考える。一方的な見方・考え方ではなく、対話的な学びを通して、子どもたち同士の交流を図りながら、「道徳的価値を深め合う」ために、委員会では道徳教育における「意見交流」に重点をおき、そこから「自他の考え・思いを見つめる」ことのできる授業づくりを目指し、このテーマに決定した。

三 研究の経過

研究は主に、①公開授業の参観と授業研究会への参加、②各自の授業実践、③委員同士の情報交換、の3つの方法によって進めた。実際に授業に参観させていただくことで、先生方の道徳教育における授業づくりを間近で見ることができ、その学校の研究から学ばせていただくことがたくさんあった。また、オンライン会議も定期的実施し、委員同士の情報交換も行うことができた。

教育課程研究協議会では、研究協議Ⅱの準備運営と当日の司会を行った。研究協議Ⅱでは、前半は各校の道徳教育における年間指導計画の見直し、後半はそれぞれの実践や授業での悩みを持ち寄り、グループトークを行った。

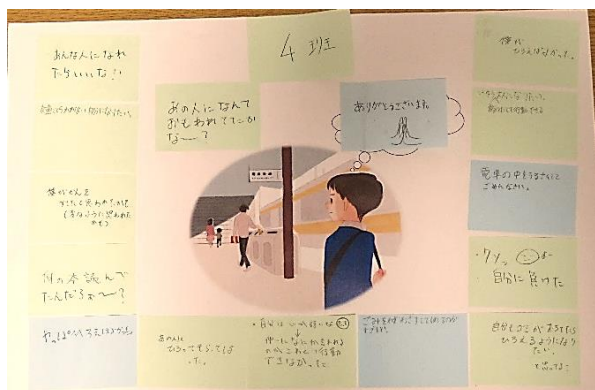
四 研究の内容

「子どもたちが『道徳的価値を深め合う』にはどのような指導の工夫ができるかを考え、特に「意見交流を通して、自他の考え・思いを見つめられる」ことのできる授業について、どんな手立て・授業展開ができるかに重点をおき、研究・実践を行った。

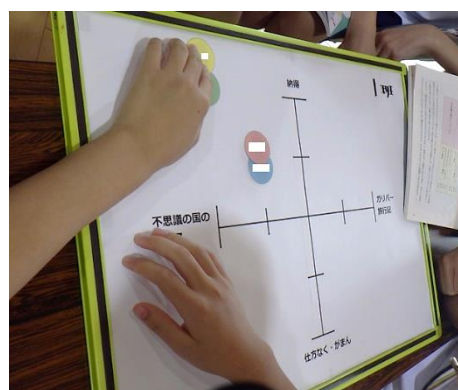
1. 生徒が自ら課題をもち、伝え合い、解決する喜びを味わう授業を目指して

他者と思いや考えを伝え合いながら、多様な価値にふれ「自分なら…」を練り上げる道徳の授業を実施してきた。これは本校の研究テーマの「かかわりあい」と「振り返り」にあたる部分でもある。他者と思いや考えを伝えあうことで、今まで自分にはなかった新たな価値に気が付いたり、自分の考えがより確かなものになったり、「自分なら…」と自己を見つめることで自分なりの最適解を求める姿に迫ることができると考えた。そのために次のような手立てで授業を行ってきた。

① 付箋



② スケール



③ スプレッドシート

1	時間を決めてやる。他に夢中になることを見つける。				
2	色々な趣味を持つ。走る。				
3					
4	一日限度を決めてやる	ひとつに偏り過ぎないようにする	決まった時間にやめて他のことをやってみる		
5	一つではなく複数個好きなこと楽しいことを見つける	自分に制限を設ける			
6	自分で自分のことを制御できるような力を作る		スポーツにめりこむ		
7	・時間やルールを決める	・自分が楽しいと思えることを増やす。(一つのこと夢中になりすぎない)	制限をかける		
8	一つのこと、熱中しすぎないで、いろいろなことに挑戦したり、体験したりしてみる	ことが大切だと思う。			
9	SNSやゲームから離れる時間をつくる。	3食の時間や就寝・起床の時間を決める。	いろいろなことに挑戦し夢		
10	制限をかける・時間などを決めてゲームやスマホ(SNS)・早寝早起きをしてしっかりご飯を食べる(3食)				
11	・気持ち	・制限をかける	・他のことをする		
12	・決まった時間でゲームで遊んだりテレビを見たりする。	・時間を決める	・ゲームとかテレビの他に趣味を見つける		
13	1日に何時間やっていたらいいか制限を決める。	いろいろなことに興味を持つ			
14	一つのことにかたよりすぎない	制限をかける	いろいろなことに興味を持ち、新たな趣味を見つける	一日のス	
15	一つのことにかたよりすぎない	違うことにも興味を持つ	・制限をかける	・時間を決める	
16	健康に必要なことに使う時間を削ってまでしない。				
17	時間を決める	ゲーム機などを親に預かってもらう。			
18					
19	家族とルールを決めて破ったら他の方に挑戦!	自分やほかの人も思ったら誰か頼れる人に相談する。			
20	適度な運動勉強をする				
21	もっと視野を広げているんなことに興味を持ちたりする。	人との交流を大事にする			
22	時間を決めてゲームなどをやる。自分でやめられるようにする。	周りの人たちとコミュニケーションを取る。			

④ Chat

めでたい

6月24日, 8:54

桃太郎だけしかめでたくない

👍 3 🌻 1 🍷 3

6月24日, 8:54

守る

6月24日, 8:56

鬼にとっては桃太郎が怖い

6月24日, 8:56

桃太郎は恐怖

①「カラカラカラ」では、男の人の背中を目で追いかけていたときに達也が考えていたことを付箋に書き、班でまとめの紙に貼りながら自分の考えを伝えていく活動を行った。②「民主主義と多数決の近くて遠い関係」ではスケールを用いて、どちらの劇を選ぶかを横軸に、納得して決めているかを縦軸に表して話し合う活動を行った。③「夢中になるのは悪いこと？」では、依存に陥らない生活を送るために必要なことをスプレッドシートに書き出し共有する活動を行った。④「桃太郎の鬼退治」では、鬼が島の鬼の子が桃太郎のことをどう思っているかについて、感じたことを Chat に書いた。

スプレッドシートや Chat は、友だちの考えをリアルタイムで見ることができると、友だちの考えに共感したり足がかりにしたりして考えが進めやすいように感じた。また、Chat は共感していることをマークで伝えることができる。言語化することが苦手な生徒であっても自分の感情が表現しやすいところが利点だと感じた。スケールは、マグネットを置く位置で生徒の考えが見えるため、マグネットの動きを説明してもらると、生徒の考えがどのように変わっていったかがわかった。いろいろな手立てを授業の中で行ってきたが、班で何かを一緒に見ながら話をするができる場をつくると、生徒は話がしやすくなるように感じた。そして、教材やねらいによっても何をを用いるのが効果的かは変わってくるので、今後も工夫していきたい。

2. 自分の考えを持ち、友だちと共有することで深まる道徳を目指して

(1) 個人テーマ設定の理由

今年度の道徳委員会の研究テーマである『子どもたちが「道徳的価値を深め合う」指導の工夫～意見交換を通して、自他の考え・思いを見つめられる授業とは～』から、個人テーマを『自分の考えを持ち、友だちと共有することで深まる道徳を目指して』と設定した。

今年度は6学年の担任として子どもたちと関わっている。道徳の授業で扱う教材からこれまでの一人一人の経験を通して、どのような見方をし、どのような思いを持つのかを大切にしたいと思った。6年生にもなると、友だちとの衝突や自他の違いを感じる子どもも多くなってきている。そんな子どもたちが自分の考えも持ちながらも、友だちがどんな気持ちでいるのか、どんな考えを持っているのかを知り、色々な考えがある中でお互いを理解し合い、円滑に人間関係を築いていくきっかけとなることを願いながら学習を進めてきた。そのために、自分のこれまでの経験を思い出す場面を多くとったり、ペアやグループでの意見交換の場を多く設けたりすることで自分の過去と現在、自分と友だちの考えを見つめ返せるよう、実践してきた。また、今回は学年の先生方にもご協

力いただき、同じ教材を6学年の3クラスでそれぞれ実践して、学年の意見もそれぞれの学級で紹介することができた。

- (2) 主 題 名 相手の立場に立って
教 材 名 『みんないっしょだよー黒柳徹子』
内容項目 親切, 思いやり (B7)
出 典 「新編 新しい道徳⑥」 東京書籍

①主題設定の理由

学年会で子どもたちの様子について、全体的に仲がよいこと、6年生として児童会活動や学習に一生懸命取り組んでいる姿はよい点であるが、大人のいないところで悪口を言っていたり、やるべきことをやらずにいってしまったりする子もいることが挙げられた。中学に向けて、今の自分と向き合ったり、相手の立場に立ってお互いに助け合ったりできる心を育てたいと話合った。6学年担任3人で学年全体の様子を相談し、世界で活躍する誰もが知っているような人物の人生から自分との向き合い方や他者との関わり方を考えてほしいという思いを込め、『まんがに命を一手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親』、『心をつなぐ音色ーピアニスト 辻井伸行』、『みんないっしょだよー黒柳徹子』をピックアップし、3人の担任でそれぞれの担当を決めて、授業を3クラスで行った。

②教材のあらすじ

日本ではじめてのトーク番組“徹子の部屋”で司会をされ、40年以上も人々から愛され続けている黒柳徹子さん。テレビ放送が始まった頃に俳優となり、著作『窓際のトットちゃん』はベストセラーの日本記録を達成した。1984年からはユニセフ親善大使も務めている。

そんな黒柳徹子さんの考え方に大きな影響を与えたのが自分の通っていた小学校“トモエ学園”の校長先生である小林宗作先生だった。校長先生は、「いっしょだよ」「みんないっしょにやるんだよ」という言葉を子どもたちに伝え、「どうしたらみんなと一緒に楽しめるのか」、「そのために自分ができることは何なのか」を子どもたちは考えられるようになっていったと徹子さんは話している。

その考えを持った徹子さんが大人になり、目の不自由な人のために自分で読んだ朗読テープをつくり、全国200カ所の点字図書館に寄付したり、耳の聞こえない人のための日本ろう者劇団を設立して、耳の聞こえる人も聞こえない人もいっしょに楽しめる舞台を作ったりした。さらに、ユニセフ（国際連合児童基金）の活動にも関わり、戦争や飢えで親をなくしてひとりぼっちになった子どもたちのいる施設を訪れ、子どもたちに優しく接していた。子どもたちも徹子さんの優しさや温かさに触れ、笑顔になっていく様子が書かれていた。

(3) 展開

《導入》

- ・黒柳徹子さんがどんな人物なのかを確認する。(幼少期、著作の紹介、活動について)
- ・世界では戦争により苦しむ子どもたちが多くいることなど、世界情勢について伝える。
- ・黒柳徹子さんが様々な活動をするようになったきっかけが何であるのか考える。

《展開》

- ・教材を読みながら、黒柳徹子さんがどんな思いだったのか考え、共有していく。

発問1：黒柳徹子さんが海外の施設で出会った子どもたちは、何を必要としているのでしょうか。

また、施設で出会った子どもたちが、黒柳さんを慕うのはどうしてでしょう。

○児童の反応

1組→励ましてくれる人/栄養/お金/平和に暮らせる場所

- 誰にでも優しくしているから/親みたいな存在だから/家族みたいな接してくれるから
2組→お金/愛情/食べ物/家/水/家族/安心
優しいから/誰にでも声をかけているから
3組→家族/家/食べ物/衣食住/お金/薬/住みやすい家/安心安全
優しいおばあちゃん, お母さんみたいな存在だから/遊んでくれるから

発問2:今の社会の中で「みんないっしょ」をさまたげているものはどんなものかな。
→うわさ/外見/国籍/障がい/貧富の差

発問3(中心発問):黒柳徹子さんの考える「みんないっしょ」とは、どのような心なのでしょう。

○児童の反応

- 1組→愛情を持って思いやる心/違うところがあってもみんなで頑張ろうとする心
争いや差別がない,誰にでも同じように接する心/誰にでも優しくする心
2組→不平等のないみんな一緒の心/親切な心/どんな人でも一人一人差がない心
3組→体が不自由な子どもも一緒に遊ぼうとする心/楽しむ心/人を大事にする心

《振り返り》

発問4:自分のクラスで「みんないっしょ」を実現するためにはあなたが大切にしたいことは
どんなことですか。

発問5:友だちの意見を聞いてみて,自分の考えと同じところや違うところがありましたか。
どう感じましたか。

(4) 児童の様子

- ・黒柳徹子さんの人生から「みんないっしょ」に活動できることの大切さに気づくことができた。
- ・“差別”とはどんなことがきっかけで起きてしまうものなのか考えることができた。
- ・自分のクラスについて振り返った際,見た目で判断してしまったり,うわさによって“この人はこうなんじゃないか”と決めつけてしまったりしている人もおり,それに気づくことができた。
- ・クラスとして,または自分がどんなことから始めればよいのか考えることができた。
- ・実際にはすぐにできないかもしれない…という葛藤にも気づくことができた。

(5) 授業を行ってみて

今回の授業では,どの場面においても,『個人で考える→ペアで共有(あるいはグループで共有)→全体での共有』という流れを大切にしていることが分かった。学級全体に発表することには苦手意識が多い子どもたちだが,自分の考えをしっかりと持っていることが分かった。それを少人数で共有することで安心して学習を行えたり,他の友だちの考えを知ったりすることにもつながったと考える。

また,“差別”についても扱い,普段していないつもりでも,外見や障がいの有無で違う見方をしてしまったかもしれないと気づく子どもたちがいた。これまでの自分を一旦立ち止まって振り返り,人を見た目や第一印象だけで判断しないことの大切さを学んでいる子どもが多くいた。当たり前だと思っている子どもたちの方が多いたのだが,繰り返し,こうした内容に触れることで今の自分を主観的,客観的に振り返るきっかけとなるだろうと考える。

そして,誰もが大切にされるべき存在であることに気づき,みんなを大切に思う心や一緒に楽しむもうとする心が思いやりとなり,多くの人に広がってほしいと思う。

(6) おわりに

道徳研究委員となって2年目になった。昨年度は道徳の楽しさ,難しさを改めて感じ,自分自身が道徳とどのように向き合っていけばよいのか考える1年となった。

今年度は,子どもたちが道徳の学習を通して,どのように変わっていくのか見届けたいという思いで取り組んできた。ファイルにこれまでのワークシートを綴じ,自分がどんなことを考え,友だちと共有できるようになったのか,子どもたちと確認し,子どもたちが自身の変容に気づけるよう

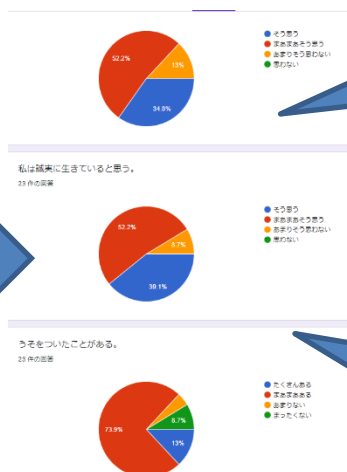
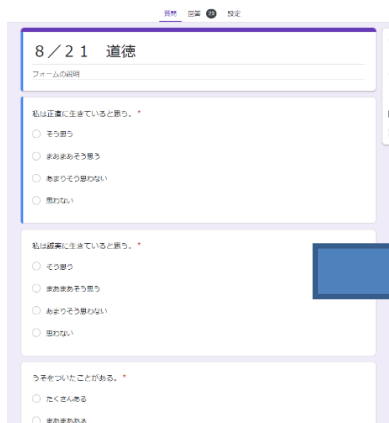
にした。

4月から新しい学級を持ち、自分の考えを書くことが難しかった子どもたちも、今では自分の生活と結びつけて考えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えが変わったりする姿が見られるようになった。誰かの考えを気にせず、自分の考えを自然と書けるようになったことも道徳の学習を積み重ねてきた成果であると考え。そして、普段の生活の中でも授業で扱った内容（道徳的価値）を思い出す場面を作り、生活の中（実の場）で生きる道徳を行うことができた。

3. 「考え、議論する道徳」を目指して…

(1) 内容項目へ方向づけるための『アンケート』(アナログ・ICT活用)

授業の導入において、その時の気持ちや行動の振り返りのアンケートを実施する。目をつぶったまま当てはまるものに手を挙げさせたり、タブレットを活用して答えさせたりする。その授業の内容項目に沿ったアンケートを実施し、児童自身について振り返る場を作り、話し合いに気持ちを向けられるようにする。



集計の手間なく、即座に児童に提示できることがICTの強みと感じた

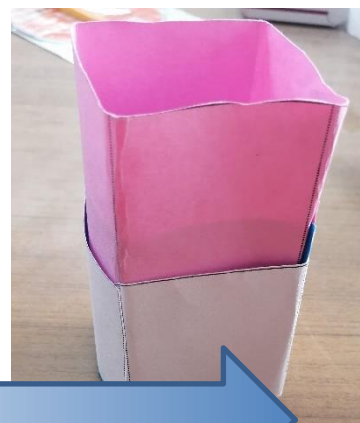
しかしながら、アナログも、準備の必要がなく、即時性があってよい

数値だけではなく、円グラフで視覚的に分かりやすく提示できる

(2) 心を「見える化」するための『心のバロメーター』(アナログ・ICT活用)

主に本時の主発問や、もしも自分だったら、と自己に置き換える場面にて活用する。自分の立場をはっきりとさせたり、自己の微妙な心の揺れ動きを可視化させたりするのに使う。これをもとに、子どもの微妙な心の在り方を表現しやすくすることで、話し合いがより活発になるようにする。

①アナログ

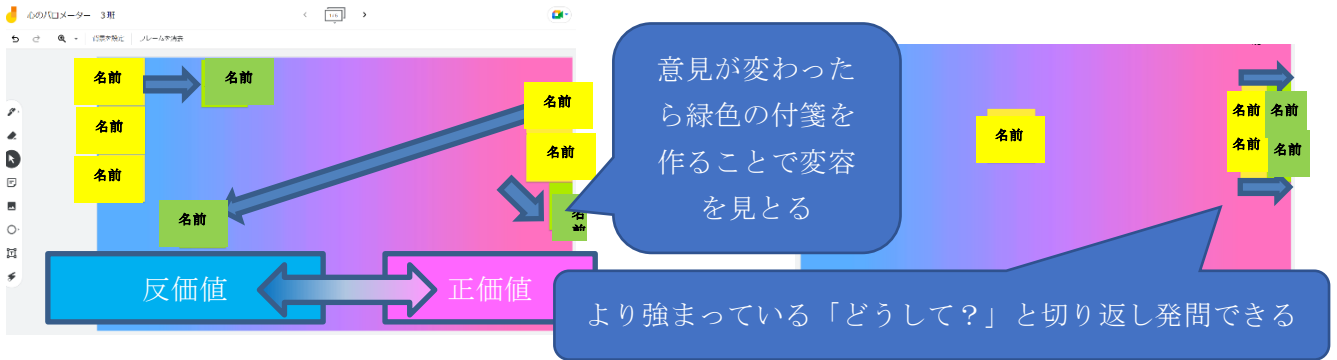


反価値

どうして青が残っているの？とか赤が多い理由はなに？と如何様にも繰り返し発問できる。

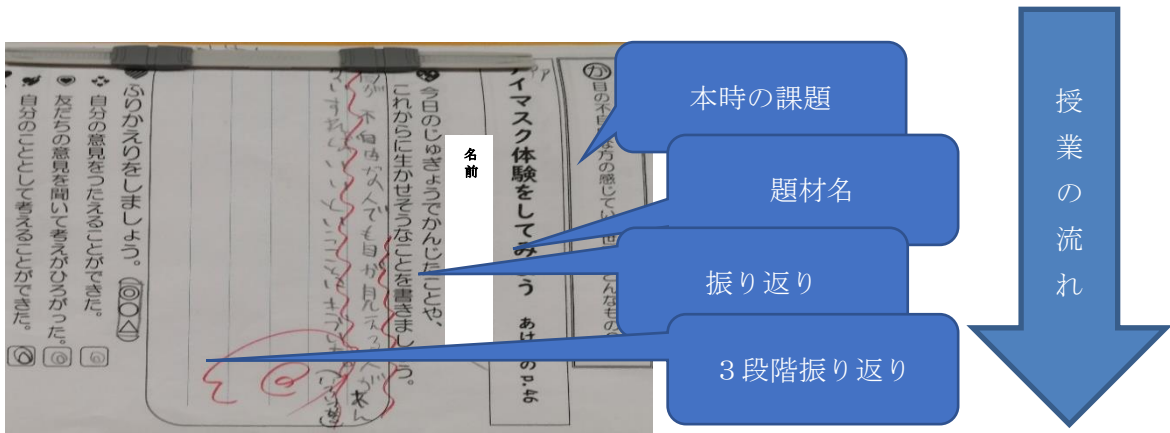
正価値

②デジタル



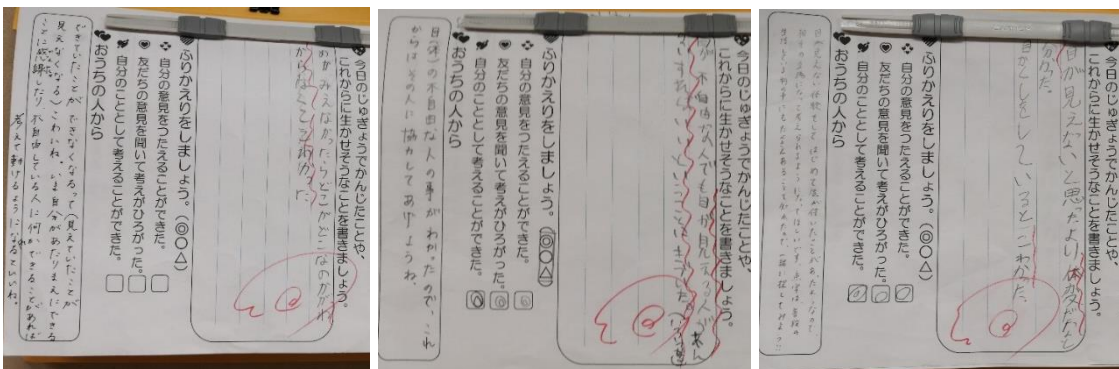
(3) 『ワークシート』の形式を統一、『道徳ファイル』の作成

毎回のワークシートの形式を統一することで、児童が本時で考えたことや現時点での納得解を記入することができるようにする。それを一年間で積み重ねていくことで自身の考えの変容や歩みをたどることができるようにする。また、毎回のワークシート作成作業も減り、業務削減にもつながる。



(4) ワークシートの工夫

ワークシートを『児童のみ版』と『保護者あり版』の2つを作成した。『保護者あり版』では4回に1回（月に約1回）家庭へ持ち帰り、保護者にコメントをもらってくる。児童と保護者で対話したり、コメントを見たりすることにより、児童間同士だけでなく、保護者との考えの違いを味わえるようにする。

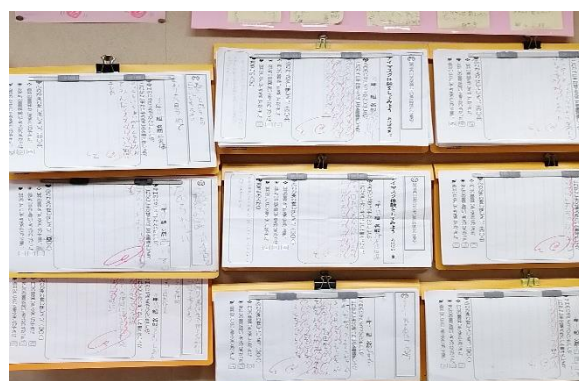
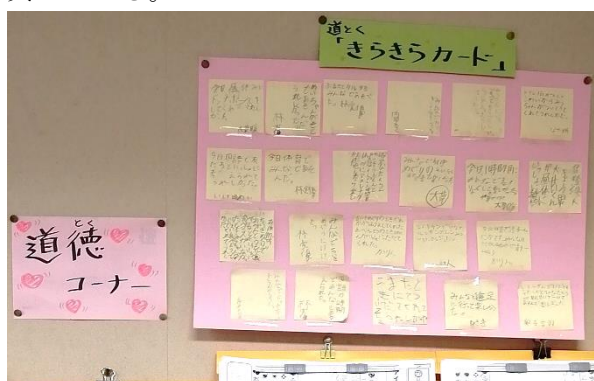


親目線の熱いメッセージをくださり、教師自身の気づきや価値を広げることもある

(5) 学級経営『道徳コーナー』の設置

クラスの壁の一部に道徳コーナーを設置した。これにより、本時のねらうべき価値に近づいてい

るものや、多様な考えを共有する。「選ばれた！」と喜ぶ児童もおり、道徳への意欲化にも一役買っている。



4. 多面的・多角的な視点を持ちながら、思いを深め合うことのできる意見交流を目指して～

(1) 主 題 名 無意識にある差別や偏見の芽に気づき、自分の言動を見直そう

教 材 名 「片腕のラグーマン」

内容項目 公正・公平・社会正義 (C11)

出 典 「私の築く道しるべ1」

(2) 主題設定の理由

道徳的価値	偏見は、普通に生活しているだけでも、時として発生する可能性があるものである。本教材は、片腕のラグビー選手が主人公で、そのチームメイトの主人公への接し方は、偏見や差別がない思いやりのある行為が書かれている。この行動の裏にある思いを考えることを通して、生徒は自身の考え方や言動が偏見にもなりえることに気づく。
教材の活用	デニスとチームメイトの関わり方において、更衣室の場面と食事の場面に着目し、チームメイトたちの行動に共感するか考える。

(3) ねらい

自身の偏見の目に気づき、偏見のない社会を実現していこうとする道徳的心情を養う。

(4) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応 ○発問	指導上の留意点 ◇準備品	時
導 入	1 資料の要約を確認する。	<p>【めあて】 偏見をなくすために大事なことって何だろう？</p> <p>○登場人物の確認 ○大きな場面（2つ）の確認 ○デニスとチームメイトの関係性をどう感じましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材の理解に時間がかからないよう、事前に資料を読む時間を設定する。 「偏見」の意味を、血液型を例に説明する。 <p>◇イラスト</p>	5
展 開	2 更衣室での場面と食事での場面について、自分がチームメイトなら共感するか考える。	<p>○デニスに対するマイクたちの行動をどう思いますか。 (共感できる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できることは自分でやった方がいい。 ・手伝うのは余計なお世話だから。 <p>(共感できない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しぐらい手伝ってあげればいいじゃん。 ・困っている人をほっておくのはかわいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを配付する。 スケールに示した位置について、理由もあわせて記入するように促す。 <p>◇名前マグネット</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で両方の意見が出るようにグループ編成をする。 	15

	<p>3 グループ内で話し合う。</p> <p>4 全体で確認後、もう一度自分の考えを整理する。</p> <p>5 偏見をなくすために私が大事にしたいことをグループで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できることを手伝われると嫌な気がしない？ ・特別扱いするのは変な気がする。 ・ステーキにかじりつくのはバカにしている。切ってあげればいいと思う。 ・靴ひもは手伝ってあげれば、時間がかからなくてデニスも嬉しいと思うな。 ・意見は変わらないけれど、自分の考えは偏見だったかもしれない。 ・手伝うのは余計なお世話だっていう意見に納得した。 ・みんなの意見や偏見かもという考えを知ったけど、それでも自分だったら手伝う。 ・見目で判断しないようにする。 ・相手のことをわからないまま発言しない。 ・誰にでも同じように接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「～してあげる」という表現があった場合、その表現が何を意味するのか問いかける。 ・自分がデニスの立場だったらどうしてほしいか考えるように促す。 ・意見が変わった生徒に理由を聞く。 <p>◇ホワイトボード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとホワイトボードにまとめ発表する。 	20
まとめ	6 「片腕のラグーマン」で学んだことから、これからの生活に生かしていきたいことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・偏見というのは、なくすことは難しいけど、それで差別はしないようにする。 ・普段自分も偏見を持っていたから、発言とか気を付けたい。 ・偏見をなくすのは難しいと思った。偏見とどう向き合っていくか、これから考えていきたい。 		10

評価の観点 以下の2つの視点について、認め励ます。個人内評価として把握する。(1時間を通して)

- 自分を含めた複数の立場から、思いに寄り添って考えようとしている。
- 自身の偏見の目に気づき、自分は偏見のない社会を実現していくためにどう行動するべきか、考えている。

(5) 授業を通して

- ・スケールを用いて表現しながら対話することは、多面的・多角的に考えを深めるための手段として有効であったと考えられる。
- ・机間巡視の際に、スケールの位置の4と5の違いなど細かな気持ちの違いについて話せるとより深まったのではないかという意見や、様々な立場から考えた場合などより多角的な視点をもたせられるような声かけがあっても良かったのではないかという意見をいただいた。
- ・2の場面で、黒板にネームプレートを貼り生徒の様子を把握しようと考えたが、黒板に貼りながら他の生徒の様子を伺い、自分の考えを変更してしまう姿がみられた。フォーム等を活用する方法も検討したい。

5. 自分の価値観を「議論」できる道徳授業を目指して

- (1) 主題名 親切にするよさ 教材名 「学びゆう園のさつまいも」
 内容項目 親切, 思いやり (B6) 出典 「新編 新しいどうとく②」東京書籍

①主題設定の理由

今年度2年生の担任をさせていただいている。道徳の授業では、教科書の資料を読み、登場人物の気持ちを考えることを通して、自分の生き方・考え方を振り返り、更新しようとする学習

を設定している。しかし、登場人物の気持ちを考えることが難しく、自分事につなげづらい状況がある。一方で、資料を読み、本時の道徳的価値にすぐに気づける児童にとっては、本時の授業の必要感をもつことが難しいように感じる。そこで今回は、普段の学習の展開ではなく、道徳的価値を友だちと議論する活動を取り入れたい。「どうして親切にすることが大切か」という問いを友だちと議論することを通して、何となく「親切にすることは大切だ」と感じていた子どもたちが、改めて「親切にすることの価値や理由」に気づき、自分事として日々の生活に生かしていける児童の姿につなげていくことができるようにしたいと思い、本主題を設定した。

②あらすじ

いもほりの日に学校を休んでしまったみち子さん。残念な気持ちの中、家で休んでいると、クラスメイトのよし子さんが、みち子さんへの手紙とともに、収穫したさつまいもを家に届けてくれた。みちさんは、よしさんにしてもらったうれしかったことを、教室の友だちにも話そうと思ったというお話である。

③ねらい

よし子さんの親切な行動に対して、みちさんはどのような気持ちで受け止めているかを考えるとともに、「どうして親切にすることが大切なのか」について、意見を交わしながら、親切にすることの価値や理由を考え、実生活に生かしていけるようにする。

(2) 授業の実際

①導入

- ・「みち子が、うれしかったことを教室の友だちにも話したいと思ったのは、どんな気持ちからか」について、考える。

②展開

- ・「どうして親切にすることが大切なのか」について、話し合う。
- ・話し合う際は、安心した雰囲気ですす・聞くができるように、机を端に寄せ、いすだけで輪になり、座って行う。

【出された意見】

- 親切にした人もされた人もうれしい。いい気持ちになる。
- 親切にされなかった人は悲しい。
- 親切にした自分にもいいことがある。 ○親切にすると、友情が深まる。
- お互いの心が温かくなる。 ○親切にしなかったら、心が痛む。
- （親切にしないと）友だちがいないクラスになる。 ○親切にすると、楽しくなる。
- （親切にすると）友だちが嫌な気持ちにならない。
- 親切が増えると、優しいクラスになる。
- 親切にすると、友だちがいっぱい増える。 ○（親切にしないと）暗いクラスになる。
- 親切にすると、友だちが遊んでくれる。
- クラスの1人でも、嫌な気持ちにさせないため。

③終末

- ・話し合いを受けて、授業の最後に「今日の授業の感想」を書いた。

【今日の授業の感想】

- 話し合いで出た意見を踏まえ、新たな気づきができY児の振り返り

親切にすることは、前から大事だと思っていたけど、親切にすると友だちが増えたり、お互いに親切にし合っていると、みんながいい気持ちになったりして、親切にする人も増えることを知りました。

- 話し合いで出た意見を踏まえ、これからの生活に生かしていこうとするM児の振り返り

お友だちが困っていたら、助けてあげたい。お友だちが悲しい気持ちでいたら、「大丈夫」と声をかけてあげたい。そしたらその友だちも嬉しい気持ちになると思う。親切を増やして、クラスみんなで楽しい気持ちで過ごしたい。

(3) まとめ

本時のような授業を行ったことで、「親切にすることは大切である」という考え方にとどまらず、「どうして親切にすることが大切なのか」といった「親切にすることの価値」に迫ることができた。そうすることで、親切にすることの大切さを自分事として捉えることができ、実際の行動につながっていくことができるように感じた。以前、本題材と同じ教科書に載っている「さかあがりできたよ」という題材を学習した。さかあがりができなかった主人公が、練習を積み重ね、さかあがりができるようになったというお話である。この学習の際、子どもたちに「努力し続けてもうまくいかないときがあるよね。そうなったら、その努力は無駄かな。」という発問を投げかけた。そして、「努力が報われなくても努力を続ける派」「努力が報われなかったら努力することをあきらめる派」に分けて議論をした。「いつかは努力が報われるから努力を続けたい」「無駄な体力を使うだけだから努力をやめてあきらめた方がいい」など様々な意見が出された。「努力が報われなかったら努力することをあきらめる派」の人が、努力することの大切さに気づくことは、この授業だけでは至らなかった。しかし、「努力することは大切だ」という1つの価値を押しつけるだけの授業でなく、登場人物の行動の価値について、立ち止まって議論することで、より深い価値に迫っていけるような気がした。今後、教師からの価値の押しつけにらず、子どもたち自身が道徳的価値を生み出していけるような授業のあり方を十分に検討していきたいと思う。

6. 自分や友だちの意見を尊重し合い、素直に思いを伝えることのできる道徳授業を目指して

(1) 道徳の授業を行うにあたって ～学級の実態から～

このクラスの子どもたちと出会ったときの第一印象は、素直でやさしい児童が多いということだ。特別支援学級や日本語教室に通っている、心の不調で欠席してしまう、教室にとどまっていることが苦手など、様々な特性をもった児童がいるクラスだが、「なんでいないの?」と変に理由を聞いたり、「休んでばっかりいてずるい」と不満を言ったりすることもせず、教室に来られたときは「おはよう!」「今日はいつまでいられるの?」「〇〇教室行ってらっしゃい!」と、あたたかな声かけが自然とできる児童がいて、とても素敵な姿だと感じている。授業では、わからないことやうまくいかなかったことがあった児童に対して、「大丈夫だよ」「失敗は成功のもと!」「わからない人、教えてあげるよ」と前向きな捉え方ができている児童が多い。

その反面、まだ相手意識をもてずに、自分の思いばかりが出てしまったり、よかれと思ってやった行動が迷惑なことであったりして、コミュニケーションの取り方については、まだまだ学んでいかなければならない部分も見受けられる。また、学習面においては自分の学力に自信をもてない児童もおり、「できないと思う」とネガティブな発言がでるときもある。友だちに対してはポジティブな発言ができるが、自分事となるとネガティブな発言になってしまうところから、自己肯定感の低さもあるのではないかと感じている。

道徳の授業は、今まで・これからの自分と向き合ったり、さまざまな価値観に触れたりする、大切な時間だと考えている。普段の授業であまり自己表出できないが、道徳の授業では挙手をし発言することができる児童もいる。自分の思いを大切に、クラスで共有し、「こんな考え方があっていいんだ」「〇〇さんって、こんな思いをもっていて素敵だな。」と思えるよう、意見交流の場面を取り入れた授業づくりを目指している。自分の考え・思いに自信をもち、いろいろな考え・思いをもっている友だちがいることを知り、そんな友だちとどうやったら仲良く気持ちよく過ごせるのか、道徳の授業を通して考えることができればと思いながら、道徳の授業を行っている。

(2) 授業の実践

主題名 かけがえない命

教材名 「大切なものはなんですか」

内容項目 生命の尊さ (D18)

出典 「どうとく3」 光村図書

【ねらい】 虫たちがそれぞれのいちばん大切なものを話し合う姿から、生命を大切にすることや、生命の尊さを感じ、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

〈展開〉

学習活動	○発問 ・予想される児童の反応	・教師の指導や指導上の留意点 【評価】
1 自分のいちばん大切なものは何か、考える。	○自分のいちばん大切なものは何ですか。 ・誕生日で買ってもらったゲーム。 ・習い事で使う道具。 ・お金 ・家族 ・友だち ・自分 ・命	・さまざまな考えを受け止め、板書する。 ・思いつかない人は無理に記述せず、友だちの考えを聞くように促す。
2 「大切なものは何ですか」を読み、虫たちの大切なものが何か確かめ、特にアゲハチョウの「もっと大切なもの」について着目する。	○虫たちのいちばん大切なものは何でしたか。 ・みんなそれぞれの大切なものがあるのだな。 ・アゲハチョウの「もっと大切なもの」は何だろう。 ・アゲハチョウの友だちだったモンシロチョウは動かなくなったから、死んでしまったのかな。 ○(補助発問)セミはみんなの話を思い出しながらずっと何を考えていたのでしょうか。 ・アゲハチョウは「命」が大切だと言いたいのかな。	・さまざまな虫たちが自分の大切なものをどんどん上げていく中で、アゲハチョウの「もっと大切なもの」という言葉や、セミが「ずっと考えこんでいる」様子に着目し、「命」に焦点をあてられるようにする。
【考えること】 命を大切にすると、どういうこと？		
3 「命を大切にすること」について、自分の考えをもつ。	◎(中心発問)命を大切にすることについて、くわしく考えましょう。 ・大切な人からもらった物だから、ゲームも大切。 ・生きるためには、お金も食べ物も必要だから。 ・命は一つしかないから、無くしてはならない。 ・自分の命も、家族や友だちの命も大切。	・導入の場面や虫たちがあげた大切なものを否定するのではなく、なぜそれが大切だと感じたのか、具体的な理由を考えられるような声かけをする。(例：お金→みんなが生きていく衣食住のために必要だから。)
4 「命を大切にすること」について、意見交流する。	・自分と同じ考えの人がいるな。 ・そんな考え方をする人もいるのだな。 ・確かに、その考えもすてきだな。	・班編成について、さまざまな意見と触れられるように、休み時間などいつも一緒にいる友だちばかりにならないよう、担任が編成した。また、なるべくどの班にも積極的に発言したり、意見をまとめようとしたりする児童が入るようにした。
5 改めて「命を大切にすること」について考え、授業のふり返りをする。	・命を無駄にしないために、たくさん食べたり、たくさん遊んだり、たくさん勉強したりしたい。 ・自分を産んでくれた家族に感謝したい。 ・一つしかない命を無駄にしないで大切にしたい。 ・友だちも同じように一つしかない命だから、一緒に仲良く過ごしたい。	・導入の場面で考えたものを否定するのではなく、そのものが「命を大切にすること」上でどんな関わりをもっていくのか、関連付けて考えられるように声かけをする。 【評価】 生命の尊さを感じ、自他の生命を大切にすることや、その理由を、自分なりに考えている。(発言・ワークシート)

(3) 授業の考察

①導入の「自分のいちばん大切なものは何か」を考える場面では、予想以上に「命」と記述した児童が多く、そこからどれだけ「命の大切さ」を深めていくことができるか心配はあったが、教材を読んだり、友だちと意見交流をしたりする中で、「命がないと好きなことができない」「友だちにも会えない」「周りの人が悲しんでしまう」「お母さんが産んでくれた大切な命」など、命の大切さについてそれぞれに価値づけがされていると感じた。K児は、はじめから「命」が大切と記述していたが、教材を読むことで「命がないと虫たちが大切なことができない」と虫たちの立場になって考えたり、友だちとの意見交流を終えて「命をもらう→いろいろできる→命が大切とい

うことにつながる」と書き足したりして、命の大切さについて、多面的・多角的な見方につながる姿が見られた。

②終末の「命を大切にするために、これからどうしたいか」を考える場面では、「一つしかない自分の命を大切にしたい」「後悔しないように生きたい」「どんなことも全力でやりたい」といった自分の生き方の質を高めるような考えや、「虫や植物も同じ命をもつ仲間だから大切にしたい」「自分だけでなく友だちや家族の命も大切にしたい」といった他者に思いが広がっている児童もいた。K児は、「命を大切にしながら、ルールを守って生きたい」「大切な命はいつかなくなっちゃうけど、いちばん最後まで大切にしたい」と、自分の生き方の質を高めるような記述が見られた。

③意見交流では、自分の思いを言葉にすることを恥ずかしいと感じていた児童もいたが、班のメンバーがじっくり待っていたり、「代わりに読もうか」と声をかけたりして、発表することができた児童もいた。ニコニコマークやハートマークなど、絵で表現し、それを班のみんなに見せている児童もいた。

④さまざまな思いに触れてほしいという授業者の思いが出てしまい、最後の振り返りの時間が充分でなかった。この授業を通して、どんな思いをもつことができたのか、自分の思いがどのように変化したのか、振り返ることが大切なので、これからの授業改善につなげたい。



(4) まとめ

“意見交流のできる道徳”を積み重ねていくことで、普段の授業の話し合い活動でも、自分の意見をしっかりと伝えたり、自分とは違う考えに耳を傾けたりする姿が見られるようになってきた。うまく自分の言葉で伝えられない児童もいるが、そんな児童に寄り添い、どんなことを伝えたいのかくみ取ろうとする児童の姿も見られる。道徳の授業に限らず、言葉で伝えるのは難しいが文章なら書ける、文章を書くことは難しいが言葉で伝えることはできる、絵や図にかいて伝えることができるなど、さまざまな手段での意見交流の形が見えてきた。これからも道徳の授業を基盤に据えながら、一人一人の思いが尊重できるような雰囲気づくり・学級づくりを目指したい。

五 研究のまとめと課題

1 研究のまとめ

教育課程では、午前は青木中での授業公開・授業研究会を行った。意見交流を通して、他者の考えや意見を尊重する気持ち、物事を多面的・多角的にとらえる力、課題解決や自己の成長のために進んで物事に取り組む姿勢を育むことなど、さまざまな面につながることを学ばせていただいた。午後の研究協議会の年間指導計画の見直しでは、普段なかなか見直す機会がなく、昨年度のをそのまま引き継いでしまうことが多いという意見があり、今回のような形で見直しをすることができよかった。また、グループトークでは、先生方の実践や授業の困り感を共有し、これからの道徳の授業にいかせるような内容となった。

各実践においては、研究テーマに基づき、子どもたちが「意見交流を通して、自他の考え・思いを見つめられる」よう、委員それぞれの研究を行い、実践することができた。今後も、委員会として、よりよい指導に向けて研究し続けていきたい。

授業参観では、そこでどんな対話が生まれていたのか、児童生徒や授業者の表情・姿を肌で感じることができ、自分の授業の在り方を見直すきっかけになった。また、オンラインによる定期委員会、C4thを活用した情報交換など、参集による移動の負担を軽減し、話し合いの時間を充実させ、十分な情報共有を行うことができた。

2 今後の課題

子どもたちが「意見交流を通して、自他の考え・思いを見つめられる」授業はどうあったらよいか研究を進めていく中で、意見交流といってもさまざまな手段があることが見えてきた。ペアやグループで直接対話すること、ICTを活用してたくさんの考えに触れること、スケールやメーターを活用して細かな変化を表すことなど、多様な手段で実践を行うことができた。

一方で、自分の思いを表現することが難しい児童にとっては、自分の思いをなかなか伝えられなかったり、他者の意見に左右されてしまったり、意見交流で考えを深めていくことが難しい一面も見えてきた。また、直接対話している声を聞き取ること、考えや気持ちの変容を読み取ることなど、教師側の目だけで見取りきれない部分をどう評価したらよいか、課題も見えてきた。すべての事象を見取することは難しいので、ワークシート・ホワイトボード・ICTなど、さまざまなツールを活用しながら意見交流ができるような授業展開を考えたい。

教育課程の研究協議Ⅱでは、道徳教育の年間指導計画の見直しを行い、普段なかなかできていなかった道徳の年間計画はもちろん、道徳的価値と資料のつながりを意識し、道徳の授業を確実にいき、子どもたちの心に道徳的価値観を蓄積していけるような授業を積み重ねていきたい。また、ICTを活用した学習形態について、どの場面で活用していくのか、よく吟味し採用していく必要もある。直接意見交流する対話的な学びも大切にしたい。

さらに、道徳の指導や評価について、どう実践したらいいかわからず困り感をもつ職員も多くいる。本委員会学んだことを、いかにして多くの職員に知ってもらい、実践してもらおうかということも今後の課題である。今年度の教育課程の研究協議会で行ったグループトークについて、たくさんの情報を得ることができたことと好評であったので、今後の研究方向のひとつとして引き継ぎたい。